

授業科目(ナンバリング)	専門演習 B (DA302)			担当教員	坂本 雅俊		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
授業における演習プログラムのテーマは「ソーシャルワークに関する方法」についてである。学生は、「社会科学的認識能力」を身に付けることができる。特に、福祉利用者の実像を知るためにボランティアにでかけ、社会人として必要なパフォーマンスの力を体得する。そのため学生の理解度と興味に合わせて学習素材をその都度提供する。							②④⑥⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	医療福祉、福祉教育に関する興味ある社会問題を理解し文章で説明できる。				授業での意見交換	10%	
情報収集、分析力	医療福祉に関する情報を収集することができる。				授業での意見交換	10%	
コミュニケーション力	福祉学習支援等について円滑なコミュニケーションで意見交換ができる。				福祉ボランティア研修	40%	
協働・課題解決力	民主的に医療ソーシャルワークや福祉教育について考え、協働して課題解決方法を討論できる。				福祉ボランティア研修	30%	
多様性理解力	医療福祉、福祉教育の視点から「多様性」の意味を知ることができる。				授業での意見交換	10%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
適切に自分の意見をまとめ、積極的に意見交換すること。その代表的な意見を振り返りを通して学生同士で共有する。特に、医療ソーシャルワーカーとして必要な資質を言葉と文章で表現し、患者の多様性について理解する。学生の意見を授業中にフィードバックを行い学生の成長を確認する。振り返りにおいて、意見交換を行い、到達目標の能力ごとに評価する。							
授業の概要							
ソーシャルワーカーに課せられた課題をテーマとして与えるので、これを軸として福祉ボランティア研修への関心を高め、的確な福祉専門用語を用いて意見交換を行う。その際、教師が介入して学生の成長を促す。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：『現代社会福祉用語辞典』（2017）九州社会福祉研究会編 学文社 参考書：なし 指定図書：関家新助（2004）『西洋哲学思想と福祉』中央法規							
授業外における学修及び学生に期待すること							
学生だからこそできる研修を積み上げていってほしい。医療機関、子ども学習支援の現場への体験訪問等将来にソーシャルワーカー職に就いたとき、必要な「価値観」を磨くことになる。専門演習は就業生活設計の方向付けに活用して欲しい。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	後期の演習日程を知る。ゼミの運営方針を再確認	学修についての後期の計画を共有する
2	利用者の暮らしの実態を知る①	自分の個性を磨くためのパフォーマンス力を身に付ける	自分の目標を立てて実行する
3	利用者の暮らしの実態を知る②	自分の個性を磨くためのパフォーマンス力を身に付ける	自分の目標を立てて実行する
4	利用者の暮らしの実態を知る③	自分の個性を磨くためのパフォーマンス力を身に付ける	自分の目標を立てて実行する
5	利用者の暮らしの実態を知る④	自分の個性を磨くためのパフォーマンス力を身に付ける	自分の目標を立てて実行する
6	利用者の暮らしの実態を知る⑤	自分の個性を磨くためのパフォーマンス力を身に付ける	自分の目標を立てて実行する
7	利用者の暮らしの実態を知る⑥	自分の個性を磨くためのパフォーマンス力を身に付ける	自分のパフォーマンス力を振返る
8	利用者の暮らしの実態を知る⑦	自分の個性を磨くためのパフォーマンス力を身に付ける	自分のパフォーマンス力を振返る
9	論文の執筆に向けて①	卒業論文に向けて、これまでのパフォーマンスからテーマを考える	自分の目標を文章化する。
10	論文の執筆に向けて②	卒業論文に向けて、これまでのパフォーマンスからテーマを考える	自分のパフォーマンス力を振返る
11	論文の執筆に向けて③	卒業論文に向けて、これまでのパフォーマンスからテーマを考える	自分のパフォーマンス力を振返る
12	論文の執筆に向けて④	卒業論文に向けて、これまでのパフォーマンスからテーマを考える	自分のパフォーマンス力を振返る
13	発表会①	自分のテーマを発表することができる	自分のパフォーマンス力を振返る
14	発表会②	自分のテーマを発表し、友人の発表について質問することができる	資料をまとめる
15	前期のまとめ	振り返りと総括、今後の方向を話し合うことができる	振り返りと発表

授業科目(ナンバリング)	専門演習 B (DA302)			担当教員	中村 龍文			
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修	
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型	
<p>社会福祉の様々な場面で対人業務を行う場合に、医療・医学の知識は必要不可欠なものと考えられる。専門力、情報収集・分析能力、コミュニケーション力、協働・課題解決力および多様性理解力の獲得を目指して、高齢者、障害者、その他様々な疾患やハンディキャップを持った人々に対して、個々人の抱える問題解決のための思考・判断をする事が出来るようになるために、ゼミ生自身が主体となって、卒業研究に向けてテーマを選び、関係した資料を収集し、それらをもとにまとめ、わかりやすくプレゼンテーションができるようになることを目標とする。さらに、論文執筆の基礎について学ぶ。</p>							④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑪ ⑫	
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率		
専門力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉士にとって必要な問題点について討議できる。</li> <li>・福祉に関連した医療・医学の専門用語を説明できる。</li> <li>・論文の形式、構成について説明することができる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の発表</li> <li>・課題レポート</li> <li>・グループ発表</li> </ul>	5%	5%	5%
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館で文献検索ができる。</li> <li>・収集した文献を読み内容を分析できる。</li> <li>・インターネットを活用した、資料の収集ができる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の発表</li> </ul>	15%		
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のテーマについて、論理的に発表することができる。</li> <li>・グループディスカッションに参加し、十分に討議できる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の発表</li> <li>・グループ発表</li> </ul>	20%	20%	
協働・課題解決力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉における医療・医学の視点から傷病者、障害者に対する支援を考えることができる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題レポート</li> </ul>	20%		
多様性理解力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉士にとって必要な問題点について討議できる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ発表</li> </ul>	10%		
出席					受験要件			
合計					100%			
評価基準及び評価手段・方法の補足説明								
<p>定期試験は行なわない。自分で決定した発表のテーマについて課題レポート(25%)を作成し、どれ位深く掘り下げて調べているか、また自己の発表(40%)でのプレゼンテーションにおいてどれ位わかりやすくまとめているかが評価の基準となる。また、グループディスカッション(35%)の内容についても評価したい。その都度フィードバックを行い確認する。</p>								
授業の概要								
<p>自分の興味のある、福祉、健康、医療、医学などの分野からあるテーマを決めて、文献検索、資料調査などを通してレポートを作成する。授業は、発表を行なった後、全体のディスカッション形式で進めていく。また、卒業研究に向けての、論文執筆の基礎についても学ぶ。可能な限り、実際の医療現場訪問や、病院の福祉職(MSWなど)の方々との意見交換の場も持ちたい。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分である。</p>								
教科書・参考書								
<p>教科書：特に指定しない。</p> <p>参考書：特に指定しない。必要なものは適宜紹介する。</p> <p>指定図書：この1冊できちんと書ける！論文・レポートの基本 日本実業出版社</p>								
授業外における学修及び学生に期待すること								
<p>このゼミを通して、自分の頭で考え、行動できるようになって欲しい。最後まで休まず積極的に参加し、色々なことにチャレンジして、何かをつかんで欲しい。レポートの作成などで、図書館その他の施設を効果的に利用し、文献検索法についても習熟して欲しい。また、広く社会にも目を向け、現在何が問題になっているのかをつかんで欲しい。このためには、広く新聞やニュースなどに注意し、様々な現場で多くの皆さんから色々な意見を聞いて欲しい。</p>								

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	専門演習 B のスケジュール計画	ゼミの行動計画について。医学、医療、保健、健康などの発表テーマについての説明。	復習：発表テーマについて検討する。
2	テーマの選定について	発表方法の確認と、テーマ、発表の順番を確認する。	復習：発表テーマについて検討する。
3	テーマの発表①、討論	テーマの発表（担当者）、グループディスカッション。	発表準備、他の人の発表内容の復習。
4	テーマの発表②、討論	テーマの発表（担当者）、グループディスカッション。	発表準備、他の人の発表内容の復習。
5	テーマの発表③、討論	テーマの発表（担当者）、グループディスカッション。	発表準備、他の人の発表内容の復習。
6	テーマの発表④、討論	テーマの発表（担当者）、グループディスカッション。	発表準備、他の人の発表内容の復習。
7	テーマの発表⑤、討論	テーマの発表（担当者）、グループディスカッション。	発表準備、他の人の発表内容の復習。
8	テーマの発表⑥、討論	テーマの発表（担当者）、グループディスカッション。	発表準備、他の人の発表内容の復習。
9	論文執筆の基礎①	論文の構成（序論、本論、まとめ、結論）について学ぶ。	発表準備、他の人の発表内容の復習。
10	論文執筆の基礎②	論理的な構成の文章作成について学ぶ。	復習：論理的文章作成
11	論文執筆の基礎③	論文のテーマ（主題）決定の考え方について学ぶ。	復習：テーマの決定の考え方について
12	論文執筆の基礎④	表題（タイトル）のつけ方について学ぶ。	復習：タイトルのつけ方について
13	医療施設訪問	佐世保市内の医療施設で最新の医療機器などを見学する。	復習：医療施設見学のまとめを行う
14	医療福祉職との意見交換	医療ソーシャルワーカーなどの方との意見交換を行う。	復習：意見交換のまとめを行う
15	全体のまとめ	ゼミを振り返って、達成点、不十分な点の反省。	復習：達成点、反省点の確認

授業科目(ナンバリング)	専門演習 B (DA302)			担当教員	大島 啓		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>専門演習は A・B は、4 年次開講の「卒業研究」(原則持ち上がり)へと発展していく科目である。本演習では、関心のある社会問題、社会福祉のテーマを選択し、それに関する文献を丁寧に解説することを通じて、現代日本社会が抱える様々な(福祉)問題の全体像を把握・整理し、資料の作成やプレゼンテーション、ディスカッション等を通じて、社会の課題に対する思考力、判断力、表現力を涵養することを目標とする。この演習はとりわけ、地域社会や国際社会の多様な課題に対応しうる理論的知識を深める点に特色がある。また卒業論文作成に向け、各自のテーマ設定や論文の書き方についても学ぶ。卒論のテーマ設定については、各自の興味に応じた内容を検討し、絞り込んでいく。</p>							⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	現代日本社会が抱える様々な(福祉)問題に関する情報を収集し、それを分析して自己や社会の成長に役立つ知見を指摘できる。				・資料作成	10%	
コミュニケーション力	ホスピタリティの精神に基づいて他の人の意見を傾聴するとともに、文献や資料を正確に読解し、テーマを発見・深めることを通じて、自分の考えを明確にした上で、相互理解を図る議論に参加できる。				・授業での発表・グループ討議など授業への参加	70%	
協働・課題解決力	資料の作成・プレゼンテーションのスキルアップを通じて、課題を的確に把握し、他の人と協力して課題解決に向けた方策を立案し、実行する営みに寄与できる。				・課題提示に対するプレゼンテーション	20%	
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>授業への出席・参加は当然の評価要件とし、資料の作成(評価比率10%)、プレゼンテーション(評価比率20%)、ディスカッション(評価比率70%)などによって総合的に評価する。資料作成については問題に関する情報を収集し、問題解決の糸口を発見できたかどうかを評価する。プレゼンテーションについては、他人の意見を傾聴し自分の考えを明確にした上で、相互理解を促進できたかどうかを評価する。ディスカッションについては、資料の作成・プレゼンテーションのスキルアップを通じて、課題を的確に把握し、他人と協力して課題解決に向けた立案ができるかどうかを評価する。なお発表内容に関しては、授業内にコメントの形でフィードバックを行う。</p>							
授業の概要							
<p>授業の進め方は、最初にオリエンテーションを施し、前半は、ゼミ全員で合議の上決定した文献を各自分担の形で発表する。後半は、各自関心があるテーマについて文献を報告し、その過程を通じて、卒論形成の基礎となる学問的作法(問題意識の形成やテーマの絞り方、文献収集や文献の読み込み方、ノートの取り方、文章表現など)を学ぶ。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない  参考書：『福祉系学生のための 改訂レポート&amp;卒論の書き方』(2005) 川村匡由・川村岳人 中央法規  指定図書：2017 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験過去問一問一答+α 共通科目編</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>卒業論文につながる演習なので、主体的に取り組むことを期待する。取り組みへの積極的態様の有無によって、卒論の出来に差が出てくることが予想される。既存の知識を習得するのではなく、自分で社会や福祉の問題を考えるための貴重な時間なので、資料作成や発表の準備等に積極的に取り組むことを通じて、有意義に過ごしてもらいたい。授業の欠席は、できる限り事前に連絡すること。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	後期の予定や内容、進め方などスケジュールを確認する	年間スケジュールを確認する
2	論文作成の基礎①	『レポート&卒論の書き方』を通じて、論文とはそもそも何か、論文のテーマ設定、構成の仕方について学ぶ	予習: 参考書の指定部分を読んでくる
3	論文作成の基礎②	『レポート&卒論の書き方』を通じて、引用、脚注のつけ方など、論文作成の基本的な作法について学ぶ	予習: 参考書の指定部分を読んでくる
4	調査研究と文献研究①	論文購読を通じて、調査研究の作成方法と留意点を学ぶ	予習: 提示された論文に目を通しておく
5	調査研究と文献研究②	論文購読を通じて、文献研究の作成方法と留意点を学ぶ	予習: 提示された論文に目を通しておく
6	卒業論文のテーマ検討①	卒業論文のテーマについて、各自が計画した内容を発表し、全員でディスカッション	予習: 先行研究の講読 復習: テーマの検証
7	卒業論文のテーマ検討②	卒業論文のテーマについて、各自が計画した内容を発表し、全員でディスカッション	予習: 先行研究の講読 復習: テーマの検証
8	卒業論文のテーマ検討③	卒業論文のテーマについて、各自が計画した内容を発表し、全員でディスカッション	予習: 先行研究の講読 復習: テーマの検証
9	卒業論文のテーマ検討④	卒業論文のテーマについて、各自が計画した内容を発表し、全員でディスカッション	予習: 先行研究の講読 復習: テーマの検証
10	卒業論文のテーマ決定	各自、卒業論文のテーマを確定する。合わせて章立てや執筆スケジュール、題目届も作成する	予習: 卒論のテーマや章立てについてまとめる
11	卒業論文作成①	各自のテーマ設定に従い、論文の全体像やグランドデザインを示す(序章と一章に該当)。	予習: 卒論グランドデザインの作成 復習: 議論をもとに修正
12	卒業論文作成②	各自のテーマ設定に従い、論文の全体像やグランドデザインを示す(序章と一章に該当)。	予習: 卒論グランドデザインの作成 復習: 議論をもとに修正
13	卒業論文作成③	各自のテーマ設定に従い、論文の全体像やグランドデザインを示す(序章と一章に該当)。	予習: 卒論グランドデザインの作成 復習: 議論をもとに修正
14	卒業論文作成④	各自のテーマ設定に従い、論文の全体像やグランドデザインを示す(序章と一章に該当)。	予習: 卒論グランドデザインの作成 復習: 議論をもとに修正
15	夏休みの課題と指導	夏休み中に卒論を暫定的に完成させるよう指導	夏休み期間中の卒論執筆計画の作成

授業科目(ナンバリング)	専門演習 B (DA302)			担当教員	脇野 幸太郎		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
前期Aでの成果を踏まえ、各自の卒業研究に向けたテーマ設定および研究計画の作成を行う。そのうえで、具体的な研究手法（資料・文献の検索方法、論文作成の基礎など）についての検討と、各自のテーマについての報告およびそれについてのディスカッションを行い、卒業研究への基礎固めを行う。							⑤⑥⑦⑧
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会保障の諸制度について説明できる。</li> <li>・基礎的な研究手法（文献検索、論文作成の基礎等）を身につけている。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表レジュメ（制度説明の的確性・正確性）</li> <li>・議論での発言</li> </ul>	10% 10%	
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の見解をレジュメにまとめて報告することができる</li> <li>・自分の見解を的確かつ論理的な文章で表現することができる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表レジュメ（自分の見解がまとめられているか）</li> <li>・議論での発言</li> </ul>	10% 10%	
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あるテーマや課題に関する議論に積極的かつ適切に関与することができる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・議論での発言</li> </ul>	30%	
協働・課題解決力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あるテーマや課題について、他のメンバーと協働しながら、その解決策を模索することができる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・議論での発言</li> </ul>	20%	
多様性理解力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者の意見を傾聴し、それに基づく議論をすることができる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・議論での発言</li> </ul>	10%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
課題の準備・提出状況や内容、およびゼミ内での議論での発言などを上記の基準に基づき評価する。提出された課題や議論の内容などに対しては、授業内でコメントをする形でフィードバックを行う。							
授業の概要							
各自が関心を持ったテーマを持ち寄り、それについてまずは先行研究（文献）の整理とその発表、後半からはそれを踏まえた研究計画の作成とその発表を行う。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：授業時に指示する。 参考書：教科書に同じ。 指定図書：教科書に同じ。							
授業外における学修及び学生に期待すること							
前期Aと同様、「社会保障」をゼミの基盤に置くが、卒業研究のテーマは必ずしも社会保障に関したものでなくてもかまわない。また、高齢者、児童、障がい者、地域など、社会福祉のどの分野であってもかまわない。ただし、どのようなテーマを選ぶにしても、社会保障の制度理解は必ず必要となるので、そのことを理解し、積極的にゼミ運営にかかわってくれる人の参加を希望する。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	後期オリエンテーション	後期の予定や内容、進め方などについて確認する。	前期の初回に立てた2年間の予定を見直し、残りの期間の予定の修正案を考えておく。
2	論文作成の基礎①	論文とはどのようなものかについて、作文・感想文・レポートなどとの違いを確認しながら学ぶ。	予習：指定教科書(135～216ページ)を読んでおく。
3	論文作成の基礎②	論文のテーマ設定、構成の仕方などについて学ぶ。	予習：指定教科書(15～62ページ)を読んでおく。
4	論文作成の基礎③	論文における文献の引用方法(「引用」と「剽窃」「コピー」の相違など)、脚注のつけ方など、論文作成の基本的な作法について学ぶ。	予習：指定教科書(63～104ページ)を読んでおく。
5	先行研究の整理①	各自のテーマに沿って先行研究を整理、発表し、全員によるディスカッションを行う。	予習：先行研究の検索、講読 復習：議論をもとに検索した文献を再読
6	先行研究の整理②	各自のテーマに沿って先行研究を整理、発表し、全員によるディスカッションを行う。	予習：先行研究の検索、講読 復習：議論をもとに検索した文献を再読
7	卒業論文作成準備①	卒業研究の内容について、各自が計画した内容を発表し、全員でディスカッション	予習：卒業研究計画の作成 復習：議論をもとに計画の見直し
8	卒業論文作成準備②	卒業研究の内容について、各自が計画した内容を発表し、全員でディスカッション	予習：卒業研究計画の作成 復習：議論をもとに計画の見直し
9	卒業論文作成①	卒業研究計画をもとに、論文作成を進める。 それに関する進捗状況の発表と計画の見直しを行う。	予習：卒業研究計画にもとづく論文作成 復習：議論をもとに計画の見直し
10	卒業論文作成	卒業研究計画をもとに、論文作成を進める。 それに関する進捗状況の発表と計画の見直しを行う。	予習：卒業研究計画にもとづく論文作成 復習：議論をもとに計画の見直し
11	卒業論文作成	卒業研究計画をもとに、論文作成を進める。 それに関する進捗状況の発表と計画の見直しを行う。	予習：卒業研究計画にもとづく論文作成 復習：議論をもとに計画の見直し
12	卒業論文作成	卒業研究計画をもとに、論文作成を進める。 それに関する進捗状況の発表と計画の見直しを行う。	予習：卒業研究計画にもとづく論文作成 復習：議論をもとに計画の見直し
13	卒業論文作成	卒業研究計画をもとに、論文作成を進める。 それに関する進捗状況の発表と計画の見直しを行う。	予習：卒業研究計画にもとづく論文作成 復習：議論をもとに計画の見直し
14	卒業論文作成	卒業研究計画をもとに、論文作成を進める。 それに関する進捗状況の発表と計画の見直しを行う。	予習：卒業研究計画にもとづく論文作成 復習：議論をもとに計画の見直し
15	全体のまとめ	現時点での卒業研究作成の進捗状況を確認し、今後の課題の確認と計画の見直しを行う。	来年度のスケジュールを作成する。

授業科目(ナンバリング)	専門演習 B (DA302)			担当教員	韓 榮芝		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必須
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本演習では、前期 A でいくつかの国についての研究成果を踏まえ、コミュニティ・ソーシャルワークへの理解を深める。その上で、具体的な研究方法を身につけ、自分の関心課題を絞り込んで決めていくことを目標とする。課題レポートについては、ゼミ中に演習形式にて取り組んだ課題をまとめることにより、社会人としての応用力と速戦力を身につける。							①②③④⑤⑥ ⑦⑧⑨
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法		評価比率
専門力	諸外国の福祉課題を積極的に取り組むことができる。				発表レジュメ 授業態度・活動への参加		5% 5%
情報収集、分析力	アジア諸国の社会情勢を踏まえた上で日本の地域課題を的確に把握することができる。				課題レポート		10%
コミュニケーション力	福祉専門的な技術・技能を活用した取り組みに参加できる。				授業態度・活動への参加 課題レポート プレゼンテーション		5% 10% 20%
協働・課題解決力	諸外国における福祉専門職種のそれぞれの役割を理解できる。				課題レポート 発表・質疑応答		10% 20%
多様性理解力	諸外国の福祉社会の基本理念や歴史的流れを理解し、説明することができる。				出席カードコメント 欄の内容 課題レポート		5% 10%
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
授業への参加は評価要件とする。レジュメの作成、発表・討論（40%）、課題レポート（40%）によって総合的に評価する。授業の各回において、レスポンスカードに記入し提出すること（20%）。授業への参加意欲を評価する材料とする。関心課題について文献・資料を探し出し、リサーチの結果をまとめて提出する。また、それらの研究成果を1つ絞って発表し、討議を行う（1人で発表15分、討議15分程度）。							
授業の概要							
日本の社会福祉分野においては、近年東南アジアに関する研究は益々必要とされることを再確認する。そのために、ソーシャルワークの視点でコミュニティを拠点に日・中両国の社会保障・社会福祉（社会的セーフティネット）を推進していく考えを念頭に置きながら、各自で課題を発見し、関連の文献・資料を探し出し、研究成果をまとめる。授業の進め方は、各自の課題について研究成果をまとめて報告し、討論を行っていく。その中で各自の関心課題を煮詰めて絞っていく。その上で卒業論文につながるような関心・課題を見つけて題目を決める。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：「レポート・論文の書き方入門」（単行本） 河野 哲也著 慶応義塾大学出版会 参考書：「レポート・試験はこう書く 新・社会福祉要説」 中島恒雄著 ミネルヴァ書房 必要に応じ指示する 指定図書：①「コミュニティ・ソーシャルワーク」 平成23年度・平成24年・平成25年 日本地域福祉研究所発行 ②「社会福祉の国際比較—研究の視点・方法と検証」 阿部 志郎、井岡 勉（2000/4）有斐閣出版社							
授業外における学修及び学生に期待すること							
国際比較研究を進めるために、社会調査の方法（フィールドワーク）についてしっかり勉強しておく。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	ガイダンス	授業の進め方及びスケジュールを把握する。	シラバスを読む、前期の振り返り及び今期の研究日程作成
2	先行文献の収集	文献収集の方法（インターネットの活用及び図書館の利用方法）について学ぶ。	文献収集の方法についてインターネットで調べておく
3	先行文献の分析	先行資料の分析・解釈について学ぶ。	配布資料の精読とフィールドワークについて調べておく
4	社会調査の基礎	実地調査の方法―フィールドワーカーに関して学ぶ。	授業内容の振り返りと指定論文の精読
5	先行論文のまとめ方	論文の基本的考え方、発想の展開法から表現上のコツまで検討する。	先行論文のまとめ及び論文の構成などについて調べる
6	課題の設定と論文の構成	課題の設定、論文の構成などについて学ぶ。	授業内容の振り返りと次回発表の準備を行う
7	個人研究発表 ①	関心課題の研究成果を発表し討議を行う。	発表内容の振り返りと次回発表への準備
8	個人研究発表 ②	同上（場合には国際比較研究として）	発表内容の振り返りと次回の先行文献の探し
9	卒業研究に向けて ①	卒業研究に即した先行文献をリサーチする。	リサーチの内容を踏まえて報告書を作成する
10	卒業研究に向けて ②	卒業研究に即した先行文献の検討及び報告	討議内容の振り返りと先行調査・集計方法について調べておく
11	卒業研究に向けて ③	卒業研究に即した先行調査・集計方法の検討及び報告	授業内容の振り返りと次回の研究課題を検討する
12	卒業研究に向けて ④	卒業研究に即した仮研究課題の設定及び検討	授業内容の振り返りと卒業研究の目的を明確しておく
13	卒業研究への取組①	卒業論文の題目設定及びその研究の目的、意義及び問題提起と研究方法の検討	卒業研究の題目を踏まえた先行文献を絞りこんで読んでおく
14	卒業研究への取組②	卒業論文に関連する文献・資料を絞り込んで、研究進捗を報告する	卒業論文の目的に即した先行文献を絞り込んで研究計画を考える
15	総括	全体の振り返りと次年度の研究計画の策定	

授業科目(ナンバリング)	専門演習 B(DA302)			担当教員	石橋 亜矢		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本演習では専門演習、卒業研究を通して思慮する力を養うことを目的とする。卒業研究に向け、基本的な研究過程および方法論に関する知識の修得の為に、テーマに応じた課題の追及、クリティーク能力、ディスカッション、プレゼンテーションに関する基礎的なスキルの修得を目標とする。</p> <p>この演習を通して、専門的知識を修得し、それらを様々な課題に適用して解決を図ることができることをねらいとする。</p>							②④⑤⑥⑦⑧ ⑩⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	自分の見解をレジュメにまとめて報告することができる。 その見解を的確かつ論理的な文書で表現することができる。				プレゼンテーション レジュメ作成	10% 10%	
コミュニケーション力	社会福祉士としての役割や機能・連携（調整力）に関する知識を体系的に学習することができる。 課題に関して自分の考えを的確に文章化し、表現力を備えた発表ができる。				授業態度・参加	55%	
協働・課題解決力	社会福祉士において意義ある研究課題を探り、自主的に学習することができる。メンバーと協働し共に考え、アサーティブなディスカッションを行うことができる。				ディスカッション参加 課題レポート	15% 10%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>「授業態度・参加」(55%)、「ディスカッション参加」(15%)とし、主体的な参加とアサーティブな姿勢を評価する。「課題レポート」(10%)を課し、本演習の課題、予習・復習のまとめをポートフォリオ上にてフィードバックを行い学生と共有する。発表は、担当した「レジュメ作成」(10%)及び、「プレゼンテーション」(10%)の内容で評価をする。</p>							
授業の概要							
<p>本演習の授業形式は、自主的な学習成果の発表および討議による授業形態をとるので、学生の主体的な準備の基に、進めていきたい。コースの前半は、多くの論文を読みながら、論文とは何かを学ぶ。後半は、各自が卒業論文作成に向けて文献検索をし、演習でのプレゼンテーションやディスカッションを通して自らの問いを説明できるようにする。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする</p>							
教科書・参考書							
<p>参考書：『パソコンで進めるやさしい看護研究』富田真佐子著 保育社 『よくわかる看護研究論文のクリティーク』山川みやえ著 日本看護協会出版会 ※演習の内容やテーマに応じて必要な資料・文献は、適宜紹介する。 指定図書：『トラベルビー人間対人間の看護』長谷川浩著 医学書院</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>本演習のゼミでは、専門的な知識や技術は勿論だが、人と人、心と心を通わせる専門職としての、感性が最も大切である。地道な努力により成長できる事を信じ、一人一人が楽しめる様な工夫を考え共によりよいゼミを創造していきける力を養って欲しい。更にゼミ生は仲間でもありライバルでもある事を認識し、芯の強さを持ちゼミの目標に向かって計画的に前進されることを強く望む。レジュメの作成や発表の準備など、課題をしっかりやってくるのが受講の要件とする。 注意点：やむを得ない事情で出席できない場合は、事前連絡・相談を行い、代替の履修方法について指導を受けること。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	後期オリエンテーション	後期の予定や内容、進め方などについて確認する ゼミ長を決める。	予習：前期に立案した予定を見直し、修正案を考えておく 復習：卒論の方向性を整理する。
2	論文レジュメの役割	論文レジュメが卒業研究論文執筆に向けて、どのような役割を持つのかを知る。	予習：論文作成と整理をする 復習：卒論の序論を整理する 社福国試 31 回を学修
3	仮題目の設定	仮題目の設定を通じ、研究課題を明確にする。	予習：仮題目設定後の研究方針を考える 復習：卒論の序論を書き上げる。国試 31 回を学修
4	研究計画書の執筆	仮題目をもとにして、研究計画（研究の課題や具体的日程）を作成する。	予習：研究計画書を作成し、ポートフォリオにて提出 復習：研究計画書を作成する 国試 31 回を学修
5	先行研究の整理①	各自のテーマに沿って先行研究を整理、発表し、 全員によるディスカッションを行う。	予習：先行研究の探索、購読 復習：議論をもとに探索した文献を再読。国試 31 回を学修
6	先行研究の整理②	各自のテーマに沿って先行研究を整理、発表し、 全員によるディスカッションを行う。	予習：先行研究の探索、購読 復習：ディスカッション内容を整理する。国試 31 回を学修
7	卒業論文作成準備①	卒業研究の内容について、各自が計画した内容を発表し、 全員でディスカッションを行う。	予習：卒業研究計画書作成 復習：議論をもとに計画の見直し。国試 29 回を学修
8	卒業論文作成①	卒業研究計画をもとに、論文作成を進める。 それに関する進捗状況の発表と計画の見直しを行う。	予習：卒業研究計画書作成 復習：議論をもとに計画の見直し。国試 29 回を学修
9	卒業論文作成②	卒業研究計画をもとに、論文作成を進める。 それに関する進捗状況のプレゼンテーションとディスカッションで内容を深める。	予習：発表準備を行い、ポートフォリオにて提出 復習：ディスカッション内容を整理する。国試 29 回を学修
10	卒業研究論文執筆に関する個別指導	文献および資料等の収集技法、調査手法、論文の設計等について助言を行う。 個人面談を行う（石橋）。	予習：面談内容の整理 復習：各自の研究を進め、演習で指摘を受けた点を確認する。 国試 29 回を学修
11	卒業研究論文執筆に関する個別指導	文献および資料等の収集技法、調査手法、論文の設計等について助言を行う。 個人面談を行う（石橋）。	予習：面談内容の整理 復習：助言を受けた点を確認する。国試 29 回を学修
12	卒業研究論文執筆に関する個別指導	文献および資料等の収集技法、調査手法、論文の設計等について助言を行う。	予習：調査手法を調べる 復習：調査手法を調べる。国試 28 回を学修
13	卒業研究論文執筆に関する個別指導	文献および資料等の収集技法、調査手法、論文の設計等について助言を行う。	予習：各自の研究を進め、演習で指摘を受けた点を確認する 復習：助言を受けた点を確認する。国試 28 回を学修
14	キャリアセンター活用	キャリアセンターからの講話と就活を行う。	予習：各自の将来像を考え、履歴書作成をしておく 復習：助言を受けた点を確認する。国試 28 回を学修
15	全体のまとめ	卒業研究論文における論文レジュメおよび論文の進捗状況を振り返ることで、課題点を明確にする。	復習：論文作成に伴う達成点と課題点を明確にする。 国試 28 回を実施

授業科目(ナンバリング)	専門演習 B(DA302)			担当教員	浦 秀美		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本演習は卒業研究（4 年次開講）に続いていく科目である。演習を通して自分自身で考える力・自分自身で考えをまとめる力を獲得することを目的としたい。</p> <p>福祉分野（介護・社会福祉・保育・ケアマネジメントを中心に）における福祉の問題や課題を中心に、文献を読み込み、まとめる。そして、卒業論文を執筆する際のテーマを決定していく。論文の書き方についても学びを深める。さらに、社会福祉士・介護福祉士の国家試験学修も行う。</p> <p>本演習を受講することで、本学のディプロマポリシーでも示されている、他の人の意見を傾聴するとともに自分の考えを明確にした上で、静かに意見を交換し、相互理解を図ることができるようになることもねらいとしたい。</p>							①④⑤⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力							
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門演習 A で絞り込んだ関心事について、図書館やデータベースを使用し情報収集ができる</li> <li>インターネットを活用して情報収集ができる</li> <li>収集した文献を読み、内容を分析できる</li> <li>専門演習 A で絞り込んだ関心事に関連した文献をリスト化できる</li> </ul>					レポート	20%
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の学生が関心を持つ福祉課題にも関心を持ち、議論参加できる</li> <li>社会福祉士・介護福祉士の国家試験の問題構成を各自で調べ、調べたことを受講生同士発表し合い、構成を理解することができる</li> </ul>					授業での発表 レポート	40% 10%
協働・課題解決力	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分自身や他の受講者が関心ある福祉課題について、テーマを設定し、図書館やデータベースを用いて収集したものや具体例と関連づけて説明し、協働して組み立てることができる</li> </ul>					授業での発表	30%
多様性理解力							
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> <li>授業での発表：レジュメに沿って、聞き手にも分かりやすい表現や内容であるか、適宜確認する。各自へのフィードバックも口頭や提出レジュメにコメントをつけるなどして行う（70%）</li> <li>レポート：授業内容や教科書の内容を理解し、自分の言葉で説明できているか確認し、返却時に内容をフィードバックする（30%）</li> </ul>							
授業の概要							
<ul style="list-style-type: none"> <li>前半は、受講学生自身が興味ある分野についての先行研究を集め、読み込み、要約しながら理解を深めていく</li> <li>後半は、卒業論文のテーマを設定したうえで執筆に着手する（題目決定・章立ての検討）</li> <li>国家試験学修については、問題構成の把握や、過去問題や模擬問題を解答する。また、受講学生同士で問題と解答をディスカッションしながら作成し取り組む</li> </ul> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：石黒圭（2012）『この1冊できちんと書ける！論文・レポートの基本』日本実業出版社  参考書：なし  指定図書：小澤勲（2006）『ケアってなんだろう』医学書院</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>課題の提出期限を厳守し、スケジュールに沿った真摯な取り組みを期待する。また、他者との関わりを重視するため、他者と協働して物事に取り組み課題に取り組むことや報告・連絡・相談を密に行うことを期待する。</p> <p>授業での発表や議論を円滑に行うためには、授業外でもレジュメ作成やテーマに関する調べものなどが多くなるため、授業外での学修を熱心に取り組むことができ、自主的な積極的な姿勢で物事に取り組むことを期待する。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	前期を振り返り、後期のスケジュールを確定する	(予習)前期で未達成なものを確認し、後期スケジュールを検討する (復習)後期取り組むことを明らかにする
2	先行研究①	先行研究を調査するための方法を確認し、収集を始める	(復習)収集した先行研究をまとめる
3	先行研究②	さらに先行研究を調査する	(復習)主題文を推敲し、内容を充実させる
4	研究方法の検討	調査研究、質的分析、文献研究について学ぶ。研究倫理を学ぶ	(復習)研究目的、研究方法を検討し、主題文の内容を充実させ発表準備を始める
5	引用の仕方	引用の必要性、引用の種類と方法、出典の示し方を学ぶ	(予習)論文のルール説明の準備を行う
6	研究方法の検討	研究目的、研究方法を検討した上で発表し、ディスカッションを行う	(予習)研究目的・方法に書くべき内容を明らかにする (復習)学んだことを論文作成に活かす
7	アウトラインを作成する	論文の骨組みであるアウトラインを作成する 国家試験学修準備(役割決め等)	(復習)アウトラインを完成させる、卒業論文の題目検討を始める
8	論文の構成	論文の構成(序論、本論、結論)とそれぞれに書くべきことを学ぶ 国家試験学修	(予習)国試問題・解答作成 (復習)卒論題目決定
9	卒業論文の構成	アウトライン、論文の構成をもとに、卒業論文を構成立てる 国家試験学修	(予習)論文目次とスケジュールを作成し発表の準備を行う/国試問題・解答作成
10	卒業論文作成計画を立てる	卒業論文の題名、目次を確定させ、期限までの完成に向けたスケジュールを立て、発表する。ディスカッションを通して検証する 国家試験学修	(予習)これからのスケジュールを明確にする/国試問題・解答作成 (復習)論文構成を検討し、スケジュールを再調整する
11	卒業論文執筆①	目次を発表し、アウトラインを確定する 国家試験学修	(予習)序論を執筆する/国試問題・解答作成
12	卒業論文執筆②	「第1章」を発表する。引用文献リストを作成する 国家試験学修	(予習)本論の執筆/国試問題・解答作成 (復習)引用文献リストの作成を続ける
13	卒業論文執筆③	「第2章」の進捗状況を発表する。引用文献リストを作成する 国家試験学修	(予習)本論の執筆/国試問題・解答作成 (復習)引用文献リストを追加する
14	卒業論文執筆④	本論の進捗状況を発表する 国家試験学修	(予習)本論の執筆を進める/国試問題・解答作成 (復習)意見や助言を論文に反映させる
15	まとめ	専門演習 AB を振り返り、来年度取り組むべきことを明らかにしながら四年次に向けたスケジュールリングを行う 国家試験学修	(予習)四年次スケジュールを整理する (復習)振り返りシートによる評価

授業科目(ナンバリング)	専門演習 B (DA302)			担当教員	野田 健		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
この授業は、社会福祉学的視点から「ホスピタリティとは何か」という問いを持つことから始まり、地域社会に貢献しうる自己を確立するため、「福祉哲学」「相談援助」「社会貢献」を学修の柱に据え、福祉マインドの醸成を図ることをねらいとする。授業の方法については、本学のディプロマ・ポリシーにある「人間尊重」を基本理念に、自己研鑽を継続的に行う能力（ホスピタリティを構成する能力）を高めるため、各人の興味・関心のある社会問題を中心に、文献検索・読書・資料作成・発表・ディスカッションを行っていく。なお、「専門演習」はA・Bと通年科目であり、かつ「卒業研究」につながっていくものである。							⑥⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	与えられた課題に対し、適切な方法にて情報収集を行うとともに、情報を十分に分析し、自分の考えを論理的にまとめることができる。				課題の達成度 研究中間報告	10% 10%	
コミュニケーション力	自分の意見、他者の意見を適切に交換させていきながら、互いに成長し合う関係を築くことができる。				課題の達成度 研究中間報告	25% 25%	
協働・課題解決力	与えられた課題に対し、メンバーと協働して適切な解決策を導き出すことができる。				課題の達成度 研究中間報告	15% 15%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>課題の達成度（50%）：レポート課題（Word：おおよそA4で1～2枚程度：7回）にて評価を行う。</p> <p>研究中間報告（50%）：研究中間報告として行う発表・ディスカッション（5回）での発言内容・参加姿勢・貢献度を評価する。</p> <p>フィードバック：課題、研究中間報告に関するフィードバックは、授業中もしくはポートフォリオを活用し評価・解説する方法を用いる。</p>							
授業の概要							
<p>この授業のねらいは、「福祉哲学」「相談援助」「社会貢献」をベースに、福祉マインドを醸成していくことにある。そのため、学修者個々人が興味・関心を抱く社会問題について、情報を集め、分析し、発表やディスカッションを行いながら、互いに知見を広げて成長していけるような授業を展開していく。なお、授業以外にボランティア活動にも参加することを求める。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない</p> <p>参考書：日本社会福祉学会『社会福祉学』、日本介護福祉学会『介護福祉学』（論文の書き方理解等のために活用）</p> <p>指定図書：厚生労働省編『厚生労働白書』日経印刷株式会社等の政府刊行物 ※発行年問わず</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>「専門演習」はA・Bと通年科目であり、かつ「卒業研究」につながっていくものであることから、先のことを見据え、遠慮や謙遜をせず、お互いに自由で活発な時間が過ごせるよう、「意欲」と「協調」をもって参加されることを期待する。また、ボランティア活動への積極的な参加を期待する。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	講義計画の概要の紹介、学習方法（研究計画書・引用文献リストの作成の仕方、発表の仕方）に関する説明を行う。その他、ルーブリック評価を実施する。	復習：研究計画書の書き方の復習。
2	研究計画書の立案① 研究計画書の作成	前回授業で説明された学習方法に沿った研究計画書を作成する。その他、個別面談を行う。《ポートフォリオによる課題提出①》	予習：研究計画書の作成。 復習：予習と同じ。
3	研究計画書の立案② 研究計画書の発表	研究計画書を発表し、その後、その内容に関するディスカッションを行う。《発表・ディスカッション①、ポートフォリオによる課題提出②》	予習：研究計画書の発表準備。 復習：研究計画書の修正。
4	先行研究・文献レビュー①-1	作成した研究計画書の内容を踏まえて、先行研究・文献を見つけ、熟読し、要点をまとめる。	予習：先行研究・文献に関するレポート作成。 復習：予習と同じ
5	先行研究・文献レビュー①-2	前回と同様に、先行研究・文献を見つけ、熟読し、要点をまとめる。《ポートフォリオによる課題提出③》	予習：先行研究・文献に関するレポート作成。 復習：予習と同じ
6	研究中間報告①	先行研究・文献をまとめたレポートの発表を行い、その後、その内容に関するディスカッションを行う。《発表・ディスカッション②》	予習：発表準備。 復習：中間報告時で得た知見の整理。
7	先行研究・文献レビュー②-1	作成した研究計画書の内容を踏まえて、先行研究・文献を見つけ、熟読し、要点をまとめる。	予習：先行研究・文献に関するレポート作成。 復習：予習と同じ
8	先行研究・文献レビュー②-2	前回と同様に、先行研究・文献を見つけ、熟読し、要点をまとめる。《ポートフォリオによる課題提出④》	予習：先行研究・文献に関するレポート作成。 復習：予習と同じ
9	研究中間報告②	先行研究・文献をまとめたレポートの発表を行い、その後、その内容に関するディスカッションを行う。《発表・ディスカッション③》	予習：発表準備。 復習：中間報告時で得た知見の整理。
10	先行研究・文献レビュー③-1	作成した研究計画書の内容を踏まえて、先行研究・文献を見つけ、熟読し、要点をまとめる。	予習：先行研究・文献に関するレポート作成。 復習：予習と同じ
11	先行研究・文献レビュー③-2	前回と同様に、先行研究・文献を見つけ、熟読し、要点をまとめる。《ポートフォリオによる課題提出⑤》	予習：先行研究・文献に関するレポート作成。 復習：予習と同じ
12	研究中間報告③	先行研究・文献をまとめたレポートの発表を行い、その後、その内容に関するディスカッションを行う。《発表・ディスカッション④》	予習：発表準備。 復習：中間報告時で得た知見の整理。
13	研究計画書の立案③ 研究計画書の修正	先行研究・文献レビューで得た知見を踏まえて、改めて研究計画書を作成する。《ポートフォリオによる課題提出⑥》	予習：発表準備。
14	研究計画書の立案④ 研究計画書の発表	研究計画書を発表し、その後、その内容に関するディスカッションを行う。《発表・ディスカッション⑤》	予習：研究計画書の発表準備。 復習：研究計画書の修正。
15	全体の振り返り	これまでまとめてきたレポートを振り返り、その知見と研究計画書を整理する。《ポートフォリオによる課題提出⑦》	復習：これまでのレポートの整理。

授業科目(ナンバリング)	専門演習 B (DA302)			担当教員	ヴィラーグ ヴィクトル		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本演習では、次年度の卒業研究に向けて、社会福祉研究及び論文執筆に必要な力量の向上を目指す。そのために必要な思考力・判断力・表現力を、参加型学習を通じて身につけていく。</p> <p>後期は、調査方法、研究倫理、実際の論文の書き方に対する理解を深める。その中で、量的研究及び質的研究の各種手法、求められる倫理的配慮などの基礎知識を得る。なお、本学期中に、夏休み中に読んだ先行研究の文献レビューを終えて、調査関連書類(倫理審査申請書と協力依頼書)論文概要(目次と序章)の執筆まで具体的に進める。</p>							①④⑤⑥⑪⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力							
情報収集、分析力	調査研究の方法論について調べ、伝えることができる。					文献発表	30%
コミュニケーション力	問題関心に沿って、取り組みたい研究について書面で表現できる。					論文概要	40%
協働・課題解決力	定期的な状況報告会とディスカッションに参加できる。					グループワーク	30%
多様性理解力							
出席						受験要件	
合計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>論文概要(40%)では、後期の成果物として目次と序章の完成度を問う。文献発表(30%)では、教科書輪読における分担箇所について適切にまとめられるかを評価する(一回以上)。グループワーク(30%)では、進捗状況の発表の完成度とディスカッション等への参加態度と貢献度を確認する。必要に応じて、ポートフォリオ上と授業内でフィードバックを行う。</p>							
授業の概要							
<p>オリエンテーションと文献レビューの共有を経て、量的研究の進め方、質的研究の進め方、研究倫理、論文の書き方を取り上げる。それぞれに関する輪読発表を踏まえ、学んだことに当てはめて実際に各自の研究プロセスを進め、進捗状況を共有するために報告会を頻繁に実施する。</p> <p>なお、各回のスケジュール等は6人を想定しており、最終的な履修人数等に左右される。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分である。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：久田則夫編(2003)『社会福祉の研究入門』中央法規。</p> <p>参考書：平山尚・ほか編(2003)『ソーシャルワーカーのための社会福祉調査法』ミネルヴァ。</p> <p>指定図書：岩田正美・ほか編(2006)『社会福祉研究法』有斐閣。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
担当教員の専門分野に関連する研究テーマに関心のある学生を歓迎するが、本演習は各自の課題認識に沿って進める。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	文献レビューの作成	文献レビューの合同指導	予習：文献レビューの執筆を進める。 復習：文献レビューの修正を行う。
2	文献レビューの共有	各自の文献レビューについて発表及びディスカッション	予習：文献レビューの執筆を完成させる。 復習：文献レビューの再修正を行う。
3	量的質的研究の進め方①	量的研究の概要について発表及びディスカッション	予習：教科書 89-98 頁 復習：量的研究の長所・短所を考える。
4	量的質的研究の進め方②	量的研究の手法について発表及びディスカッション	予習：教科書 98-113 頁 復習：量的研究手法の活用可能性について考える。
5	質的研究の進め方①	質的研究の概要について発表及びディスカッション	予習：教科書 115-127 頁 復習：質的研究の長所・短所を考える。
6	質的研究の進め方②	質的研究の手法について発表及びディスカッション	予習：教科書 127-147 頁 復習：質的研究手法の活用可能性について考える。
7	キャリアセンター視察	学内就職支援体制の活用方法の確認（キャリアセンター訪問）	予習：キャリアについてまとめる。 復習：キャリアセンター訪問の振り返りを行う。
8	研究倫理	研究倫理に係る諸基準の確認	予習：社会福祉士の倫理綱領と行動規範を振り返る。 復習：倫理的な配慮事項を考える。
9	調査関連書類の作成	調査関連書類（倫理審査申請書と協力依頼書）の合同指導	予習：調査関連書類の執筆を進める。 復習：調査関連書類の修正を行う。
10	調査関連書類の共有	各自の研調査関連書類（倫理審査申請書と協力依頼書）について発表及びディスカッション	予習：調査関連書類の執筆を完成させる。 復習：調査関連書類の再修正を行う。
11	論文の書き方①	論文体、章立て、アウトライン作成について発表及びディスカッション	予習：教科書 149-162 頁 復習：教科書 162-164 頁
12	論文の書き方②	引用の仕方、論文執筆の手順について発表及びディスカッション	予習：教科書 164-175 頁 復習：教科書 175-181 頁
13	論文概要の作成	論文概要（目次と序章）の合同指導	予習：論文概要の執筆を進める。 復習：論文概要の修正を行う。
14	論文概要の共有①	各自の論文概要（目次と序章）について発表及びディスカッション	予習：論文概要の執筆を完成させる。 復習：論文概要の再修正を行う。
15	論文概要の共有②	各自の論文概要（目次と序章）について発表及びディスカッション	予習：論文概要の執筆を完成させる。 復習：論文概要の再修正を行う。

授業科目(ナンバリング)	専門演習 B (DA302)			担当教員	柳 智盛		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本演習は前期科目「専門演習 A」から継続して行なわれる演習である。引き続き主に障害児・者についての理解と援助のための実践力を身につけたことを学問として卒論研究につなげていくことを目標とする。さらに、専門演習 A で得られた知識・経験を踏まえ、各自の卒論研究に向けたテーマ設定及び研究計画の作成を行う。そのため、資料・文献の検索方法、論文作成の基礎などを学び、各自のテーマについてのプレゼンテーションを行い、それについてディスカッションすることで、卒論研究の基礎的な土台を固めていくことを目標とする。また、こうした過程を通して、ディプロマポリシーにある社会の問題に対する思考力・判断力・表現力を活用し、主体的に問題解決を行う力を身に付けることを授業のねらいとする。</p>							⑤、⑦、⑩、⑪、⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力	卒論研究テーマに関連する理論を理解し、説明できる。					・課題レポート	5%
情報収集、分析力	障害児・者に対する支援に関する文献と支援活動での経験を通して、障害児・者への支援に対して指摘できる。					・授業への参加度 ・課題レポート	10% 10%
コミュニケーション力	障害者に対する理解と支援について、実体験やディスカッションを通して、卒論研究テーマに沿った自分の考えを表現することができる。					・発言内容、独自性 ・ディスカッションへの参加、発言	20% 20%
協働・課題解決力	障害児・者に対する支援に関する文献と支援活動での経験を通して得られた知見から、障害児・者への支援に寄与することができる。					・授業への参加度 ・課題レポート	15% 15%
多様性理解力	障害児・者の立場に立って考えることができる。					・課題レポート	5%
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>プレゼンテーション及びディスカッションへの参加姿勢や発言方法・発言内容の適正さ・独自性(40%)、卒論研究に向けて課された課題レポート提出(35%)、授業及び支援活動への参加度(25%)について総合評価する。なお、課題レポートについては、次回の授業で内容をフィードバックする。</p>							
授業の概要							
<p>指定文献を各回の担当者が A4 用紙 2 枚程度にまとめ、発表及び質疑応答のディスカッション形式で進めて各発表について参加者全体での理解を深める。適宜、必要に応じて実際にワークの体験なども取り入れていく。 この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：杉山登志郎著(2007)「発達障害の子どもたち」講談社現代新書 参考書：必要に応じて指示する。 指定図書：浦上昌則・脇田貴文著(2008)『心理学・社会学科研究のための調査系論文の読み方』東京図書</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>本演習において、前期科目「専門演習 A」と同様、主に発達障害への理解を深めるため文献や各メディアに関心を向けることや、ボランティア活動への参加を積極的に行い実体験としての関わり経験を積んでおくこと。その経験を理論的に関連づけて各自の卒業研究を考えていくこと。また、卒論研究テーマにおいては、必ずしも発達障害に限定しなくても構わないが、ボランティア活動で得られた経験を踏まえて卒論研究を進められることを意識してボランティア活動への参加を上記の評価での支援活動として位置付ける。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	授業内容、進め方、発表の形式などについて説明し、発表順を決める。	当日の振り返りを行い、各自の発表資料作成に取り組む。
2	文献発表・ディスカッション①	発表者による、関心のあるテーマについての発表と質疑応答を行う。	予：関心のある文献を予約しておくこと。 復：内容を振り返る。
3	文献発表・ディスカッション②	発表者による、関心のあるテーマについての発表と質疑応答を行う。	予：関心のある文献を予約しておくこと。 復：内容を振り返る。
4	文献発表・ディスカッション③	発表者による、関心のあるテーマについての発表と質疑応答を行う。	予：関心のある文献を予約しておくこと。 復：内容を振り返る。
5	中間まとめ I	各自 1 回目の発表内容を整理し、関心のあるテーマの文献収集やまとめを再度検討する。	予：各自の発表内容を整理する。 復：新たな文献収集に取り組む。
6	文献発表・ディスカッション④	発表者による、関心のあるテーマについての発表と質疑応答を行う。	予：関心のある文献を予約しておくこと。 復：内容を振り返る
7	文献発表・ディスカッション⑤	発表者による、関心のあるテーマについての発表と質疑応答を行う。	予：関心のある文献を予約しておくこと。 復：内容を振り返る。
8	文献発表・ディスカッション⑥	発表者による、関心のあるテーマについての発表と質疑応答を行う。	予：関心のある文献を予約しておくこと。 復：内容を振り返る。
9	文献発表・ディスカッション⑦	発表者による、関心のあるテーマについての発表と質疑応答を行う。	予：関心のある文献を予約しておくこと。 復：内容を振り返る。
10	中間まとめ II	各自 2 回目の発表内容を整理し、関心のあるテーマの文献収集やまとめを再度検討する。	予：各自の発表内容を整理する。 復：新たな文献収集に取り組む。
11	障害児者への支援活動①	障害児者への支援活動に参加し、その振り返りの課題レポートをプレゼンテーション及びディスカッションを行う。	予：プレゼンテーションの準備をする。 復：内容を振り返る。
12	障害児者への支援活動②	障害児者への支援活動に参加し、その振り返りの課題レポートをプレゼンテーション及びディスカッションを行う。	予：プレゼンテーションの準備をする。 復：内容を振り返る。
13	卒業研究のテーマ決め①	各自の卒業研究のテーマについて最終発表を行い、卒業研究テーマの絞込みを行う。	予：具体的なテーマを考えてくること。 復：内容を振り返る。
14	卒業研究のテーマ決め②	各自の卒業研究のテーマについて最終発表を行い、卒業研究テーマの絞込みを行う。	予：具体的なテーマを考えてくること。 復：内容を振り返る。
15	次年度の準備	卒業研究に向けた次年度の学習について説明し、次年度の見通しをつける。	予：全体を振り返る。 復：来年度からの見通しを考える。

授業科目(ナンバリング)	専門演習 B			担当教員	久田 貴幸		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本演習は、専門演習 A から継続して行われ、卒業研究へ続く科目である。専門演習 A に引き続き、文献の検索方法、論文の読み方や書き方についての力をさらに高めていくことを目的とする。授業のねらいとして、福祉における自身の問題意識や課題を整理したうえで文献を読み込み、まとめることで卒業論文を執筆する際のテーマを絞り込み、研究計画を立てたうえで執筆を開始することとする。</p> <p>本演習においては、他者の意見に傾聴し、謙虚に受け入れることができ、自身の考えとの相違を理解したうえで、必要性を検討したうえで論文に取り入れることができるようになることもねらいとする。</p>							①④⑤⑥⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力							
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館やデータベースを使用し、関心ある福祉の問題について調べることができる</li> <li>論文を執筆する意義を理解した上で論文とは何かを説明できる</li> <li>インターネットを活用して情報収集ができる</li> </ul>					レポート	20%
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> <li>関心のある福祉の問題について、それまでの背景や現状について説明することができる</li> <li>他者の関心ある福祉領域に対して関心を持って聴くことができ、質問を行うとともに自分の意見を述べるができる</li> </ul>					授業での発表 レポート	40% 10%
協働・課題解決力	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の学生が関心ある福祉の問題にも関心を持ち、議論に参加できる</li> <li>国家試験の概要について理解したうえで、今後のことができる</li> </ul>					授業での発表	30%
多様性理解力							
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>授業での発表については、レジュメに沿って聴き手に対しわかりやすい表現であるかを適宜確認し、フィードバックを行う (70%)</p> <p>レポートについては、授業内容や配布資料等の内容を理解し、自分の故後場で説明できているかを確認し、返却の際にフィードバックを行う (30%)</p>							
授業の概要							
<p>いくつかの書籍や論文を読みながら、研究とは何か、論文とは何かについて学ぶ。発表を通し自分自身が興味ある分野を明らかにしていく。また、自分自身が興味ある分野で最近どのような研究が行われているか、取り組みが行われているかを調べ、発表を行う。また、卒業論文作成に向けて資料集めや国家試験学修に着手する。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない</p> <p>参考書：なし</p> <p>指定図書：岩田正美・小林良二・中谷陽明・稲葉昭英[編] (2006)『社会福祉研究法 現実世界に迫る 14 レッスン』有斐閣アルマ</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>本演習では、卒業論文が執筆するための基本的なルールや流れについて解説・助言を行っていく。また、自分自身の興味ある分野を明確にするために自発的に取り組んでもらうことになる。そのため、受講学生自身でレジュメやレポート、それに基づく発表などが本演習の題材となる。また、他者との関わりを重視するため、他者と協働して物事に取り組み課題に取り組むことも期待する。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	前期の学修を振り返り、それを踏まえて後期のスケジュールを確定する。	(予習) 前期でのこうしていることがないかを確認し後期に取り組むことを確認する。
2	先行研究のレビュー①	先行研究をレビューするための方法を確認し、情報収集を行う。	収集した先行研究をまとめる
3	先行研究のレビュー②	先行研究をレビューするための方法を確認し、情報収集を行う。	収集した先行研究をまとめ、より充実したものにまとめる
4	研究方法の検討①	文献研究、量的分析、計量的分析、質的分析等の研究方法について学ぶ。また、研究倫理についても理解する。	研究目的や研究方法を検討し、主題分の内容を充実させる
5	研究方法の検討②	研究の目的や研究方法を検討したうえで発表を行い、それを踏まえてディスカッションを行う。	ディスカッションでの指摘や意見を踏まえて内容の再検討を行う
6	参考・引用文献について	引用の必要性や引用の種類と方法、出典の示し方を学ぶ。同時に参考文献についても学ぶ。	レポートや論文のルールについてまとめる
7	アウトラインの作成	論文の骨組みを考えアウトラインを作成する	アウトラインを完成させる
8	論文の構成①	論文の構成(序論・本論・結論)と、それぞれに記述すべき内容について学ぶ	論文の構成についてまとめておく
9	論文の構成②	アウトラインの作成、論文の構成①の内容をもとに、自身が執筆する卒業論文の構成を考える。	卒業論文の目次とスケジュールを作成する
10	研究計画書の作成	卒業論文の題名と目次を確定させ、完成までのスケジュールを立てて発表する。発表の内容を受けてディスカッションを行い情報交換する。	卒業論文の構成を検討するスケジュールを再調整する
11	卒業論文の執筆①	目次とアウトラインを確定して発表する。発表の内容を踏まえて意見交換を行う。	序論を執筆する
12	卒業論文の執筆②	「第1章」を執筆し発表の準備を行う。参考・引用文献のリストを作成しておく	本論の執筆を進める
13	卒業論文の執筆③	執筆した「第1章」の発表を行い、それをもとにディスカッションを行う。	本論の執筆を進める
14	卒業論文の執筆④	本論の進捗状況についてまとめたものを発表し、それをもとにディスカッションを行う。	本論の執筆を進める
15	まとめ	専門演習を振り返り来年度取り組むべきことや目標を明らかにしたうえでスケジュールを作成する	来年度のスケジュールを立てる

授業科目(ナンバリング)	専門演習 B (DA302)			担当教員	梅野 潤子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本演習では、4 年次の卒業論文作成を見据え、研究テーマの設定から論文執筆に至る研究過程の全体像に対する理解を深めた上で、各自の研究テーマを設定することを目指す。本演習においては、児童福祉・児童ソーシャルワークに焦点を当て、子どもに関する社会問題・生活問題を洞察し、批判的に検討し、自分の意見を文章によって表現する訓練を行う。ディプロマポリシーに掲げられる社会の課題に対する思考力・判断力・表現力を活用し、主体的に問題解決を行う力を養成するために、ディスカッション・グループワーク・プレゼンテーション等の参加型学習を行う。</p> <p>後期においては、文献レビューを通じた研究テーマに関する知識の整理と、事例研究を中心に取り組む。</p>							④⑤⑦⑩⑪⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	自身の研究テーマに関連する研究動向を理解し、説明することができる。				小レポート	5%	
情報収集、分析力	児童福祉・児童ソーシャルワークに関する文献レビューと事例研究を通じて、児童福祉実践の現状と課題を整理することができる。				授業への参加度 課題レポート	10% 10%	
コミュニケーション力	自身の研究テーマに関して、研究動向の報告やディスカッションを通じて、自分の考えを文章や口頭で表現することができる。				発言内容 ディスカッションへの貢献度	20% 20%	
協働・課題解決力	児童福祉・児童ソーシャルワークに関する文献レビューや事例研究を統合し、実践をよりよくするための課題に取り組み、提言することができる。				授業への参加度 課題レポート	15% 15%	
多様性理解力	子どもが置かれている社会状況や政策及び実践の展開過程について理解することができる。				小レポート	5%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>課題の報告及びディスカッションへの参加態度や発言方法・発言内容の適切さ (40%)、卒論研究に向けて課された小レポート・課題レポートの書き方や内容の適切さ (35%)、主体的な発言や取組等の授業への参加度 (25%) について総合的に評価する。授業中の私語や遅刻・欠席、課題の提出遅れ等は、減点対象となるため注意されたい。小レポート・課題レポートについては、次回の授業において内容をフィードバックする。</p>							
授業の概要							
<p>前期に各自で設定した研究テーマに関する理解を深めるため、研究動向の把握、年表の作成及び事例研究を行う。教科書を用いて授業を展開し、個人ワークやグループディスカッション等参加型ワークを中心に進める。研究動向の分析結果、年表、事例分析の結果については、各回の担当者が資料を作成した上で報告し、質疑応答やディスカッションを行う。この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分である。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：梅野潤子 (2013) 『研究ってなんだろうーはじめて取り組むあなたのための論文作成ノートー』 高学出版。 参考書：必要に応じて適宜紹介する。 指定図書：ピーター・フランクル (1997) 『ピーター流らくらく学習術』 岩波書店。 池上彰 (2007) 『ニュースの読み方使い方』 新潮社。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>本演習においては、児童福祉・児童ソーシャルワーク研究を進めるための考え方・知識・技術を学ぶことを目的としている。そのため、子どもに関する社会問題・生活問題に対する理解を深めるために、日頃から文献やニュース等の情報に関心を持ち、情報収集に努めることが期待される。</p> <p>また、児童福祉実践に関心を持ち、ボランティア活動に積極的に参加する等、現場における実践経験を積むことも重視する。児童福祉・児童ソーシャルワーク研究は、現場の実践をよりよくするために行われる社会的営みであることを十分理解した上で、受講生には実践と研究を結びつけることを意識しながら取り組んでもらいたい。</p> <p>なお、本演習では児童福祉・児童ソーシャルワークにおける研究方法を学ぶため、これらの分野を専門的に学ぶことを希望する学生の履修を期待する。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	本演習の目的と授業計画の説明を行う。 夏季休暇中に文献レビューした結果と、現時点での研究テーマについて発表する。	予習：シラバスを熟読し、発表内容を準備する。 復習：研究テーマに関する文献検索を行う。
2	先行研究の分析①	研究動向を把握する方法について学ぶ。 研究テーマに関する先行研究の文献リストを各自で作成する。	予習：教科書 pp. 61-62 を読み、先行研究の分析方法を理解する。 復習：自身の文献リストを作成する。
3	先行研究の分析②	作成した文献リストを、発表年ごとに分析し、研究動向を探る。	予習：教科書 pp. 61-62 を読み、先行研究の分析方法を理解する。 復習：発表年ごとの分析を完成させる。
4	先行研究の分析③	作成した文献リストを、テーマごとに分析し、研究動向を探る。	予習：教科書 1 章 3 節 1, 2 を読む。 復習：テーマごとの分析を完成させる。
5	分析結果の報告	受講生同士で、各自の研究テーマに沿った先行研究の動向を報告し合う。 ディスカッションを行い、それぞれが把握した児童福祉分野の研究動向を統合する。※小レポート提示	予習：授業内での報告準備を行う。 復習：小レポートを作成する。
6	研究テーマに関する年表作成①	各自の研究テーマに関する年代ごとの社会状況を調べ、年表を作成する。	予習：教科書 p. 63 を読み、年表作成のための文献を調べ入手する。 復習：年表を作成する。
7	研究テーマに関する年表作成②	各自の研究テーマに関する年代ごとの政策の状況を調べ、年表を作成する。	予習：教科書 p. 63 を読み、年表作成のための文献を調べ入手する。 復習：年表を作成する。
8	研究テーマに関する年表作成③	各自の研究テーマに関する年代ごとの実践の状況を調べ、年表を作成する。	予習：教科書 p. 63 を読み、年表作成のための文献を調べ入手する。 復習：年表を完成させる。
9	作成した年表の報告	各自が作成した年表をもとに、研究テーマに関する歴史的経緯について報告する。 ディスカッションによってそれぞれの年表の内容に対する相互理解を深める。 ※小レポートの提示	予習：授業内での報告準備を行う。 復習：小レポートを作成する。
10	事例研究の方法	事例研究の方法について解説する。 各自の実習やボランティア活動等、実践経験を踏まえて検討する事例を選定する。	予習：教科書 2 章 5 節を読む。 復習：選定した事例の情報（日誌やメモ等の実践記録）を準備する。
11	事例研究①	各自が選定した事例の分析を行う。 分析結果を、マッピング技法を用いて記録する。	予習：事例の分析を行う。 復習：事例分析した記録を作成する。
12	事例研究②	各自が選定した事例の分析を行う。 分析結果を、マッピング技法を用いて記録する。	予習：事例の分析を行う。 復習：事例分析した記録を作成する。
13	事例研究③	受講生同士で、各自が事例分析した結果を報告し合い、ディスカッションをする。 ディスカッションを踏まえ、追加情報や分析・記録方法の修正を行う。	予習：事例の分析結果を報告するための準備を行う。 復習：事例分析の修正を行う。
14	事例研究④	受講生同士で、修正した事例の分析結果を報告し合い、ディスカッションをする。 事例から見える実践課題と、先行研究の動向や年表とを結び付けて理解する。※課題レポートの提示	予習：再度事例の報告をするための準備を行う。 復習：課題レポートを作成する。
15	後期のまとめ	後期の学習内容の振り返りを行い、現時点での研究テーマを確認する。 春季休暇中に読む文献リストを作成するとともに、ボランティア活動等実践に関与するための計画を立てる。	予習：研究テーマについて再考し、教科書 p. 52 に記入する。 復習：リストアップした文献を入手する。ボランティア活動等の準備を行う。